

行/事/予/定

11月~1月

- 11月13日(木) 高齢ドライバー1日ドック【交通安全センター】
- 11月26日(水) 大歳特別林野区境界確認作業【阿仙原地区内】
- 11月28日(金) 大歳小学校 持久走大会【維新百年記念公園】
- 12月10日(水)~1月3日(土) 年末年始交通安全県民運動
- 12月14日(日) 大歳体育振興会長杯争奪少年サッカー大会【維新百年記念公園】
- 12月21日(日) 昔の遊び・お餅つき大会【大歳地域交流センター】
- 12月23日(火・祝) 子ども会しめ縄づくり【大歳地域交流センター】
- 1月 7日(水) ふれあい七草粥【大歳地域交流センター】
- 1月11日(日) 大歳地区どんどこ焼き【大歳小学校】
- 1月11日(日) 山口市成人式【山口市民会館】
- 1月11日(日) 消防出初式祝賀会【大歳地域交流センター】
- 1月18日(日) 第10回山口市駅伝競走大会【きらら浜】

おおとしかわあそび

Information

■ 高齢ドライバー1日ドック

9月25日(木)、高齢者の事故防止を目的に、山口総合交通センターの交通安全学習館で、高齢ドライバー1日ドックを実施しました。

当日は、最近の高齢者が関与する事故の報告や交通安全講話のほか、実車を利用した実技指導もあり、迫力ある体験をすることができ、為にもなり、楽しい1日となりました。



運転シュミレーション

■ 周布政之助150年慰霊祭

無念の思いに共に哭く

9月26日は周布政之助が自決して150年にあたり、周布公園で慰霊祭が行われました。

明治維新150年記念事業実行委員会が主催したもので、来年の大河ドラマ「花燃ゆ」で政之助を演じる石丸幹二さんや政之助の子孫の方や地域の方等120人が出席して玉串を捧げました。



慰霊祭の様子

■ 大歳まつりポスターコンテスト表彰

大歳まつりのポスターコンテストに応募していただいた23作品の審査が行われ、下記の皆さんに決まりました。

最優秀賞の皆さんの作品はポスターとして、大歳地区内に掲示されました。また、まつり当日、本部において表彰が行われ、全応募作品は交流センター和室に掲示されました。

最優秀賞	中野 美咲さん (小2)
	河村 真衣さん (小4)
	原田 鴻輝さん (小5)

ポスターになった最優秀賞の作品



優秀賞	松中 暁さん (小5)
	ふじい みづきさん (小1)
	村谷 美海さん (小1)
	岡 翔太さん (小2)
	國重 里実さん (小6)
	岡 優真さん (小4)
	竹内菜々子さん (小6)
	なかの こはるさん (小1)
	金子 春香さん (小5)
	栗田 想良さん (小5)

努力賞	畑岡百合子さん (小1)
	ふじい ことなさん (小1)
	新井健士郎さん (小1)
	上野 桃さん (小5)
	竹内 あやさん (小3)
	はらだ りゅうきさん (小1)
	張本 慶さん (小6)
	枝重 鈴さん (小5)
	栗田 太和さん (小1)
	栗田 良仁さん (小2)



編集後記

甚大な被害を出した広島市の土砂災害。阿武山は山の両斜面で大規模な土石流を発生させていたが、北斜面は人家がなく、南斜面では人家が密集して大惨事となりました。

危険な所には住まないという古来の知恵が人口の急増と次々と家が建つという既成事実により押し流され、危険地域指定もできないままの今回の災害。防災の課題の多さを考えさせられました。防災には「危険なものは危険」と認識して譲らない姿勢が必要で、それが安全なまちづくりにもつながるのではないのでしょうか。(武波)

まちづくりおおとし かわら版

2014.11 Vol.30



イベント風景

親子つれ

鉄道とくらしを記録する会

交流列車おおとしまつり

零城流大正琴

エコアイランダーズ

なすの会

星笛

SLに手を振ろう

秋のイベント盛りだくさん!

さわやかな風が吹く秋空の下、様々なイベントが催されました。9月28日(日)には、大歳駅で「交流列車おおとしまつり」が開かれ、子どもからお年寄りまで、約300人の参加者で賑わいました。綿菓子やかき氷、バルーンアートなどの出店や、交流列車おおとしの利用団体の発表会や山口県総合支援学校の生徒さんの作品展示もあり、また、先月に復活したSLやまぐち号にホームから手を振った

りと、大いに盛り上がりました。10月18日(土)には、矢原河川公園を、スタートゴールにした「ザ・チャレンジ大歳 ふるさとウォッチング」が開催されました。4、5人づつ8組に分かれ、各ポイントを巡りました。普段通っている道ですが、知らないことも多く、改めてふるさとの宝に触れたような気がしました。来年も、引き続き同じイベントが企画されることで、また是非ご参加ください。

2014.10.18 sat ザ・チャレンジ大歳 ふるさとウォッチング



養元寺

大歳分団2班消防機庫

馬頭観音(矢原河川公園)

宮島様

吉富邸

大歳史談会の井手さん

昼食の様子

大歳草刈り隊の草刈作業・大歳地区一斉清掃が行われました

10月19日(日)大歳草刈り隊15人による朝田川、吉敷川、榎野川の土手の草刈作業が行われました。今回も周辺自治会の皆さんによる作業後の清掃、ゴミ拾いなど協力いただき、作業も予定どおり終わることができました。

また、今年で5回目となり、大歳地区の恒例行事となった大歳地区一斉清掃が10月19日(日)に行われました。今年も地域の多くの皆さんが参加され、大歳地区が見違えるように美しくなりました。



「ゾーン30」導入が検討されています

「ゾーン30」ってどんなもの?

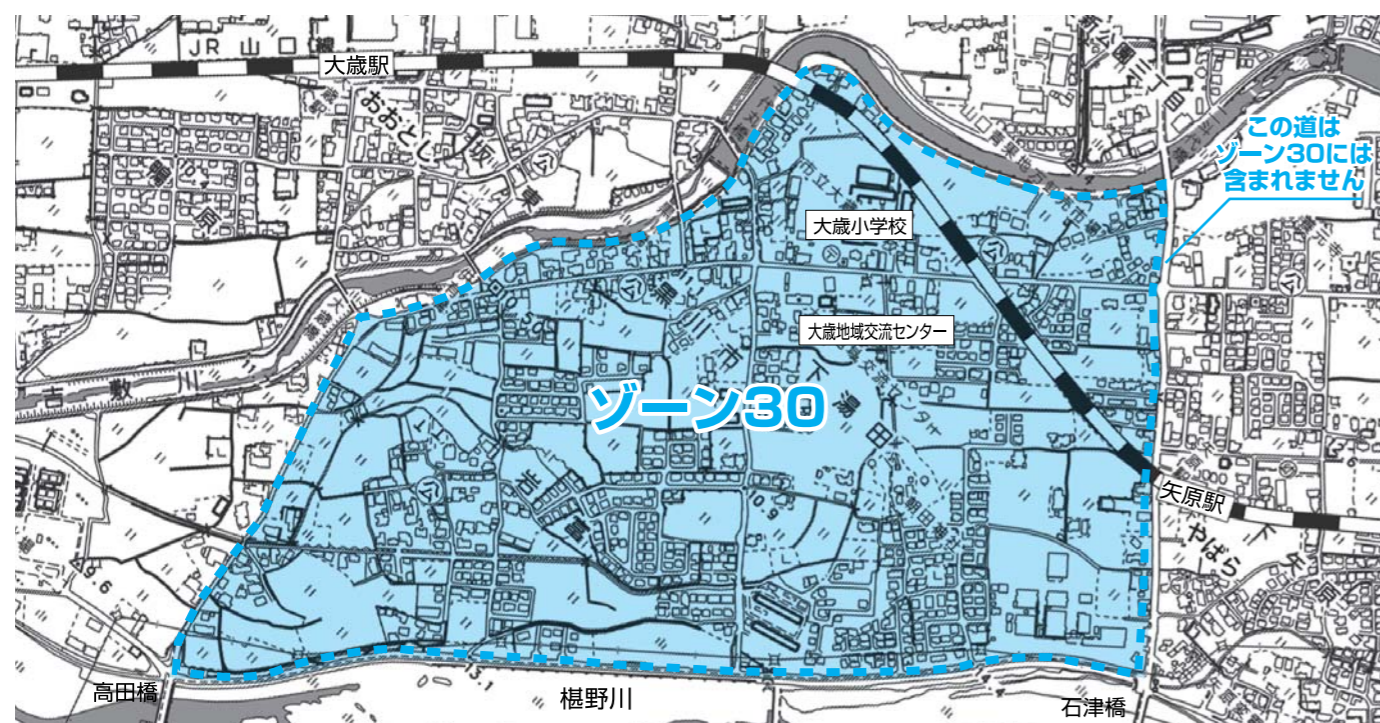
生活道路での歩行者の安全な通行を確保するために、一定の区域(ゾーン)を定めて、時速30キロの速度規制を行うものです。

具体的に何をやるの?

区域(ゾーン)への入り口に「ゾーン30」の区域を示す規制標識の設置や専用の路面標示を行うとともに、その他の安全対策を行います。

ゾーン30の効果は?

ゾーン内の自動車等の走行速度を抑制するとともに、通過交通(抜け道としての通行)を抑制・排除できます。



大歳地区敬老祝賀会が開催されました

大歳地区敬老祝賀会が、9月27日(土)、山口県総合保健会館にて開催されました。

今年は、大歳小学校室内運動場が改築工事のため、地域外での開催となりましたが、約200名の方が参加され、大変にぎわいました。

当日は、来賓の方々の祝辞につづいて、大歳小学校の児童代表により、参加者の皆様へ敬老のことばが述べられ、さらに喜寿・卒寿の方々への花束や記

念品の贈呈が行われました。

昼食にあわせ、防災アドバイザーの幸坂美彦さんによる防災のお話や、山口警察署による防犯寸劇、さらには、さわやか学級の児童たちによる踊りが披露され、お弁当を食べながらの楽しいひとときを過ごされていました。

来年もまた、多くの皆さんに元気に参加していただきたいと思います。

大歳歴史の散歩道 Vol.8

高田小学校から大歳小学校へ

明治5年の学制公布以降、バタバタと小学校がつくられていきます。明治7年には高井に朝田小学校ができます。右は明治32年の地形図ですが、石州街道からまっすぐに延びた高井八幡宮への道の途中、御旅所の近くに朝田小学校が建っており、おそらく既存の建物を利用したものと思われます。(御旅所はスバル(株)から南へ入った所に現在もあります)

矢原村は学校づくりが難航します。下宇野令(湯田)村では竜泉寺で仮に開いていた学校(家塾)を新築する話がおこり、この学校を下宇野令村、矢原村、朝田村の三村合同の学校にしようという話になりました。こうして明治10年、湯田との境であった矢原村小字高田村に高田小学校ができました。竜泉寺の住職が引き続き高田小学校の校長を務めました。また、この時、高田小学校を本校とし、朝田小学校は分校になりました。

当時、学校の建築・運営の費用は大部分が地元負担でしたから、その出費は膨大です。山口県は小学校ができるまで、仮に家塾(大半は元の寺子屋)を認めますが、明治6年には小学校187校、家塾932校と学校づくりは難航しました。高田小学校の新設は、この家塾から小学校への移行例といえますし、おそらく朝田小学校は家塾的要素が強いため、分校とされたのでしょう。山口県では、明治18年に、やっと家塾から小学校への移行が終わります。学校づくりを定めた「学制被仰出書」には、一般に「文明開化」と呼ばれた欧米文化導入の強い志向が表れており、小学校はその拠点の役割を担わされたともいえます。(学校教育の実態は、試行錯誤の連続で、文明開化路線からしばしば、はずれますが)寺子屋のように師匠のいる所が学校ではなく、学校のあるところに教



師と生徒が集まる体制が確立することで、「先進文化が集積する場」となることが期待されたのでしょうか。

ところで、高田小学校はどこにあったのでしょうか。湯田と矢原は水路を境界としていますから、矢原村小字高田村は、水路の南側で、大曲の湯田に近い側の北側にあったのですが、通称「山大通り」ができて、景観が大きく変わってしまいましたし、明治27年には火事で焼けてしまったため、明治32年の地形図では確認できません。

高田小学校が焼けた事で、翌28年、三村合同の変則運営を止め、矢原朝田村に大歳小学校、下宇野令村(湯田)に下宇野令小学校をそれぞれ建てる事となりました(朝田小学校は廃止)。明治29年に大歳小学校の校舎が完成し、現在に至っています。大歳小学校は、大歳様が祭られているため地名が小字大歳となっている所につくられました。それが、やがて村名にまでなったのは興味深いことです。おそらく、小学校は地域の文明開化の象徴として、かつ村民の苦勞(重い住民負担等)の結晶として、村民にとって今よりはるかに重要な存在だったからではないでしょうか。